

## 国立大学図書館協会地区協会助成事業 実施報告書

地区名	関東甲信越地区（主担当大学：横浜国立大学、筑波大学）
事業名	平成 26 年度 関東甲信越地区国立大学図書館協会セミナー 「10 年後の大学図書館を考える」
事業目的・趣旨	関東甲信越以外の地区で活躍している図書館職員から最近の取組や将来展望を語ってもらい、地区を越えた交流を通じて関東甲信越地区職員の資質・能力の向上を図る。
実施内容	期 日：平成 27 年 2 月 13 日(金) 会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎(東京都文京区大塚 3-29-1) 参加者： 20 名（関東甲信越地区 14 名、他地区 6 名） プログラム： 13:00-13:10 開会挨拶 加藤 信哉（筑波大学附属図書館 副館長） 13:10-13:40 基調報告 鈴木 雅子(静岡大学附属図書館 図書館情報課長) 13:40-14:00 事例報告 1 野中 雄司（北海道大学附属図書館 利用支援課 学習支援企画担当） 14:00-14:20 事例報告 2 金藤 伴成（東京大学附属図書館 情報サービス課 相互利用係長） 14:20-14:40 事例報告 3 天野絵里子（京都大学学術研究支援室 特定専門業務職員） 14:40-15:00 休憩 15:00-16:00 グループ討議 16:00-17:00 全体討議、質疑応答 コーディネータ 森 いづみ（お茶の水女子大学附属図書館 図書・情報課長） 17:00-17:10 閉会挨拶 深貝 保則（横浜国立大学附属図書館長）
事業の成果 （アンケート調査結果、事業への意見・感想等）	（参加者からの感想） セミナーでは幅広い内容の講義を受けることができ、大学図書館の未来について考えなおすよい機会となりました。 最後の全体討議で強く感じたことですが、図書館員の存在意義について、なんとなく必要と思うだけではなく、なぜそのように思うのか、また図書館が大学や社会にどのように貢献できるのか、考えておく必要があると感じました。今後、図書館について様々な場で説明する機会も増えるのではないかと思います。そのために大学図書館や大学の将来を俯瞰することも必要だと感じるようになりました。
経費	交付額： 180,000 円 執行額： 110,748 円（残額： 69,252 円） 執行額内訳： 講師等謝金及び旅費 105,200 円 グループ討議用ホワイトボード 5 枚 4,954 円 講師等お茶 10 本 594 円